



牛乳贈答券を贈った宮田代表理事組合長（中央）

JAとまこまい広域が町に牛乳券寄贈

JAとまこまい広域の宮田広幸代表理事組合長は3月30日、町内のこども園と保育所の全幼児向けに牛乳贈答券260セットを贈りました。

宮田代表理事組合長は「こどもたちの健康と消費拡大を図りたい」と、町長に寄贈。町長は「頑張って消費できるように努めたい」、こども園つみきの油谷諭園長は「3時のおやつなどで提供したい」と話しました。

株式会社丸博野沢組が環境美化活動

株式会社丸博野沢組（野澤政博代表取締役社長）が4月4日、厚真大橋から厚真新橋間の河川敷でごみ拾いの奉仕活動を行いました。

児童・生徒に、気持ちよく登校してもらおうと、28年前から入学式の直前にごみ拾いを行っています。野澤社長は「きれいな環境の中で、元気に登校して欲しい。今後も、この活動を続けましょう」と社員約20人に呼び掛け、ごみを回収しました。



ごみを拾う株式会社丸博野沢組の社員たち



- ①協働型の三川さん
- ②教育魅力化支援員の山中さん
- ③地域活性化起業人の岡村さん



起業型の中島さん、協働型の河合さん、農業支援員の中野さん、丸山さん、渡辺さん（左から）

地域おこし協力隊・地域活性化起業人8人に委嘱状を交付

町と町教育委員会は、4月1日付で新たに地域おこし協力隊7人と地域活性化起業人1人に委嘱状を交付しました。

新たに着任したのは、起業型の中島洋一さん、協働型の河合志穂さんと三川璃子さん、農業支援員の中野佑一さん、丸山亮太さん、渡辺和弥さん、教育魅力化支援員の山中卓也さん。

中島さんは木工クラフト、河合さんと三川さんは町内資源を活用した関係人口の創出、山中さんは厚真高校の魅力化促進事業に尽力します。

また、地域活性化起業人として、地域振興に関する企画などを手掛ける京都スタイル株式会社（京都市）の岡村充泰社長に委嘱状を手渡しました。各分野で、本格的な活動が始まりました。

春の交通安全運動スタート



参加者に交通意識の高揚を呼びかける宮坂町長

春の交通安全運動初日の4月6日、町交通安全推進委員会の街頭啓発が厚真市街地で行われました。

街頭啓発には72人が参加し、開始直後の降雨で沿道での啓発は見送られました。宮坂町長は「町民一丸となって、さらに交通安全に努めましょう」と参加者に呼びかけました。

厚真町では昨年、人身事故がゼロで、4月3日に交通事故死ゼロ1500日を達成しました。春は、解放感も加わりスピードが出やすくなります。特に、住宅地や通学路、交差点では危険が増します。スピードダウンを心掛けましょう。



大会出場にあたり検討を誓った橋場さん

厚真中学校1年生の橋場 凰太郎さん 中学硬式野球で全国大会出場

硬式野球チーム・苫小牧ボーイズに所属する厚真中学校1年で捕手の橋場凰太郎さんが、第52回日本少年野球春季全国大会（3月26日、東京都・小野路球場）に出場しました。

出発前に町長を尋ねた橋場さんは「1勝目指してがんばります」と健闘を誓いましたが、初戦で福岡県南支部代表の筑後ボーイズに3対5で惜敗。全国大会での経験を生かし、さらにレベルアップすることを心に秘めました。

厚真町農業振興計画策定委員会が 町に答申

厚真町農業振興計画策定委員会の松田伯明委員長が3月28日、宮坂町長に「第8次厚真町農業振興計画（案）」について答申しました。

答申書では、国の新しい農業改革に対応できるたくましい農業経営の育成・確保をはじめ、本計画達成に向けた施策について、英断をもって推進されるよう、強く要望しています。また、地域に合わせたスマート農業技術の導入や農業者にも利用しやすい有線と無線を組み合わせた地域ブロードバンド環境の構築などを提言しました。



町長に答申書を手渡す松田委員長



協定を締結した宮坂町長と加科社長

少額短期保険ハウスガード株式会社と 森林再生に向けた連携協定締結

町と少額短期保険ハウスガード株式会社は3月29日、森林再生に向けた連携に関する協定を締結しました。

町と同社は、森林資源の再生・保全や森林資源の利活用に向けた取り組みなどについて相互連携します。同社は、25日に企業版ふるさと納税で100万円を町に寄付したほか、厚真産材を使ったノベルティの製作も依頼しました。宮坂町長は「息の長い活動への協力をいただき、地に足がついた歩みが進められます」と話し、同社の加科真社長は「継続的な支援をベースに、厚真町の皆さんと一体となって森林再生に取り組みたい」と語りました。